

## 子宮体癌手術におけるリンパ節郭清について

(文責 京都医療センター 婦人科 井上卓也)

1988 年に FIGO (国際産婦人科連合) の子宮体癌進行期分類が改訂され手術進行期分類が採用され、1995 年より日本産科婦人科学会でも同様の手術進行期分類が採用された。この分類では骨盤リンパ節または左腎静脈レベルまでの傍大動脈リンパ節に転移が認められると手術進行期は IIIc 期になる。子宮体癌の手術の基本は子宮全摘術と両側付属器切除術であるが、それに加えリンパ節郭清を行う必要があるかが従来から議論となっている。上記手術進行期分類が採用されたことにより骨盤リンパ節や膨大動脈リンパ節の郭清または生検は手術進行期決定に必要な手技となり、現在では正確な手術進行期の決定という意味においてその診断的意義は確立されている。しかし一方で、リンパ節郭清の治療的意義、即ちリンパ節郭清を行うことにより予後が改善するかどうかについては、ランダム化比較試験での明確な結論が出ていないのが現状である。

こうした中、2009 年に 4 カ国 85 施設、1408 例を対象とした前方視的ランダム化試験の結果が報告された (MRC ASTEC trial)<sup>1)</sup>。この報告では、overall survival や recurrence-free survival の改善に対して骨盤リンパ節郭清は寄与せず、子宮体癌に対して骨盤リンパ節郭清を行うことは勧められないと結論づけられている。しかしながら、この報告には多くの疑問点が投げかけられている。例えば、検討症例の 43% がリンパ節転移率のそもそも低いいわゆる低リスク群にあたるので差が検出されにくい点、リンパ節摘出個数が平均 12 個と少ない点、リンパ節郭清群で進行症例がやや多いのにもかかわらずその点が補正されていない点、体癌のリンパ節転移のうち 67% は傍大動脈リンパ節転移であるのに、傍大動脈リンパ節郭清について検討されていない点などである。

一方、2010 年 3 月に本邦から後方視的検討ではあるが 671 例という多数例で子宮体癌における傍大動脈リンパ節郭清の治療的意義について検討した報告がなされた<sup>2)</sup>。この報告では、子宮全摘術と両側付属器切除術に加え骨盤リンパ節郭清のみを行った群と子宮全摘術と両側付属器切除術に加え骨盤リンパ節郭清および傍大動脈リンパ節郭清を行った群を比較している。その結果、骨盤リンパ節郭清および傍大動脈リンパ節郭清を行った群で有意に overall survival が良好であった。また各リスク群に分類しサブ解析を行った結果、低リスク群では両群間で差は認められなかったが、中間リスクまたは高リスク群では overall survival, disease-specific survival, recurrence-free survival とともに骨盤リンパ節郭清および傍大動脈リンパ節郭清を行った群で有意に良好との結果であった。

現在でもまだ一定の結論にいたっていない現状であるが、上記の報告を総合すると中間リスク以上の症例についてリンパ節郭清を行うことは予後の改善に寄与する可能性がある。また行うならば骨盤だけではなく傍大動脈リンパ節まで郭清する必要があるとの仮説に至る。現在、Mayo clinic が中心になり高リスク群の子宮体癌においてリンパ節郭清が予

後の改善に寄与するかを検討する前方視的ランダム化試験が計画されている。この試験では、高リスク群にしぼって検討すること、リンパ節郭清手技の quality control を厳密にして傍大動脈まで確実に郭清された症例を郭清群として検討することなど、これまでの試験での問題点を繰り返さないような試験デザインとなっている。リンパ節郭清術は、リンパ嚢腫・リンパ浮腫や乳糜腹水などリンパ節郭清術に特有の合併症や後遺症を起こす可能性がある。手術に際しては治療成績を向上させることを目的とするのは当然のことであるが、一方で不要な拡大手術で患者の QOL を低下させることも避けるべきである。今後の検討により子宮体癌手術において、どのような症例でリンパ節郭清を行うことが QOL の低下を最小限にしつつ予後向上につながるかを明らかにする必要がある。

- 1) The writing committee of behalf of the ASTEC study group: efficacy of systemic pelvic lymphadenectomy in endometrial cancer (MRC ASTEC trial): a randomized study. Lancet, 373: 125-136, 2009
- 2) Todo Y, Kato H, Kaneuchi M, et al: Survival effect of para-aortic lymphadenectomy in endometrial cancer (SEPAL study): a retrospective cohort analysis. Lancet, 375:1165-72, 2010